

## 【11月補正予算知事記者会見】 11月24日（金）

11月補正予算額は、12億円の増額で5,636億円。12億円の内訳は、7月の九州北部豪雨の災害対策が5億円。通常補正が21億円。うち18億は人事委員会の勧告を踏まえた人件費の補正、通常補正が3億円。新型コロナ対策の空床補償が減り14億円の減額。

国の経済対策への対応は、補正予算ごとに適宜対応しているが、追加に関しては随時現場の状況をみながら補正していく。

- 令和5年7月九州北部豪雨災害対策  
がけ崩れ等への対応により、地域生活の再建

9月補正では約200億円を計上。新たに地元調整がつき、がけ崩れ対策や林地等の治山ダムの整備に5.2億円。

- 通常補正分  
県内の高等教育を取り巻く環境

15歳未満の人口割合は、全国3位。県内の4年生大学は2校のみで全国最少。また、公立大学や高専の未設置県は、佐賀県のみ。

大学進学者の8割以上は県外大学に進学し、大多数がそのまま各地で就職する。県外流出を防ぐためには、産学金官連携が重要になってくる。

平成の間に、公立大学は39大学から100大学に急増した。例えば、都道府県の財政力指数との関係を見ると、佐賀県はDグループ。それより自己財源が少ないとされるのが、Eグループの鳥取県、島根県、高知県。しかし、この3県は平成の間に県立大学を新設した。

Dグループの13県のうち、県立大学を新設した県が9県。長崎県は、県内大学が4校から8校に増え、県内進学率が19.1%から35.9%へ倍増した。

和歌山県、鹿児島県、徳島県は、大学が4校～6校ある。佐賀の自県進学率は16.7%、83.3%は県外に流出している。

### 佐賀県立大学設置の「具体化プログラム」に向けて

2月に基本的な考え方を公表し、9月議会に基本構想の素案を公表。県民座談会を開催し、県議会や座談会の意見、県民や専門家の意見を踏まえ、本日、基本構想（案）を公表する。

11月議会の議論を経て、年内に基本構想を確定したい。来年度は、具体化プログラムに着手する。これは、カリキュラムや教員規模、人事、場所、施設など大学の機能を決める。学部運営などに知見のある研究者3名程度のメンバーと共に具体的作業に入り、

一つひとつ決めていく。

11月議会では、県議会の皆さん方、県民の皆さん方に対し説明する。

#### 佐賀県立大学の基本構想（案）の概要

基本構想（案）は開学に向け、詰める事項を記載したもの。理文融合型で、入学定員は200～300人。開学時期は10年4月以降。一般入試とは別に、県内出身者への措置を検討する。

新しい大学像への挑戦として、リカレント教育。また、フィンランドをイメージした、小中学生や高校生が普段使いできる学校、新しい県立大学像をつくりたい。

#### SAGA2024に向けて開催準備加速

かごしま国体・全障スポでは佐賀県選手団が活躍。国体の総合成績は、今年の21位から今年は10位。8位入賞まで、あと27点に迫った。

全障スポも過去最多のメダル40個。県内での育成は順調に進んでいる。SSP構想を充実させるための通過点として、SAGA2024を位置付けたい。

来年にまたぐ事業、今から予算措置すべき事業の予算設定をした。アリーナでの閉会式、夜間開催、ネット配信等、様々な初めての試みがある。よって、ソフト面は人件費も含め、先催県より増加の見込み。一方、ハード面ではカヌーや馬術などは、県外の既存施設を使うため、先催県より抑えられる。将来性のある事業に重点投資する。

#### SSP構想のさらなるすそ野拡大2

SSP構想では、パリオリ・パラ、SAGA2024を通過点とし、佐賀から世界に挑戦するトップアスリートを育成し、すそ野を広げていく。

9月議会で予選を計上した鍋島の公園整備に続き、新しく唐津の西新興町児童公園の整備を予算に盛り込んだ。

#### サガン鳥栖の強みを活かす

サガン鳥栖のU-15の練習場を整備する。J1を維持する原動力は、ユースチームの強さ。しかし、その練習場は水はけが悪く、雨が降ると練習環境が悪かった。そこで、Cygamesの企業版ふるさと納税に県費を加え、産総研の横（鳥栖市民会館の奥）に、新たなフルコートのグラウンドを整備する。7年3月にオープン予定。

育成に力を入れるため環境を整える。“育成大県さが”の意味も込めた整備事業。

市村記念体育館の文化創造拠点への改修工事が、入札不落となった。原因は、資材

価格と労務費の高騰。熊本や天神の工事需要の高まりや、この体育館が特殊構造でもあり、事業費は現在の52億円から20～30億円の上振れが見込まれる。

既に、国の交付金の認定がされている。その使用有無にかかわらず、県民負担の観点から、今改修をするタイミングではないとの結論に達した。この事業を凍結する。

ただ、先駆的な取組でもあり、コンテンツを詰める中で議論してきた内容は生かしたい。状況次第では、凍結を解除することもある。

詳細は本日午後、担当部局から説明する。